

貴店名ならびに据付引渡し日を保証書にご記入の上、お客さまに必ずお渡しください。
また、定期的な交換が必要な部品があることをお客さまに必ずお伝えください。
商品の機能が100%発揮されるよう、本説明書の内容を十分ご理解のうえ正しく施工してください。
なお施工完了後、この施工説明書を同梱の「取扱説明書の袋」に入れてお客さまにお渡しください。

1. 施工の前に

安全上のご注意

- 施工前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく施工してください。
- ここに示した注意事項は状況によって重大な結果に結びつく可能性があります。
- いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- 施工完了後、正常に作動することを確認してください。お客さまに引き渡すときは、取扱説明書にそって使用方法、お手入れの仕方を説明してください。
- この施工説明書は、取扱説明書と共にお客さまで保管頂くように依頼してください。

用語および記号の説明

- 警告** …… 「取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険な状態が生じることが想定されます。」
- 注意** …… 「取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物理的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。」
- ⚠ …… 「注意しなさい！」
(上記の「注意」と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、記載事項をお守りください。)
- ⊘ …… 「してはいけません！」
(一般的禁止記号です。)
- ⓘ …… 「指示通りにしなさい！」
(一般的な行動指示記号です。)
- ⊘ …… 「分解してはいけません！」
(分解禁止)

警告

⊘ (禁止)	給湯器の給湯温度設定は85℃より高温で使用しないでください。 ※水栓が破損し、ヤケドや家財を濡らすおそれがあります。 なお、誤作動などによるヤケド防止のため、60℃給湯をおすすめします。	
⊘ (分解禁止)	修理技術者以外の人は絶対に分解したり、修理、改造は行わないでください。 ※故障・感電の原因となります。	
ⓘ (指示)	給水圧力は必ず給湯圧力以上にしてください。 ※正常な調節ができなくなり、ヤケドをするおそれがあります。	
⊘ (禁止)	水につけたり、水をかけないでください。 ※発火、ショート、感電、故障の原因となります。	
⊘ (禁止)	バスルーム等の水がかかるところや、表面に水滴を生じやすいような湿気の多い場所では使用しないでください。 ※発火、ショート、感電、故障の原因となります。	
⊘ (禁止)	電池ボックスコードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っばったり、ねじったり、束ねたり、重い物を乗せたり、挟み込んだりしないでください。 ※電源コードが破損し、発火、ショート、感電の原因となります。	
⊘ (禁止)	電池ボックスコードを濡れた手で触れないでください。 ※感電の原因となります。	
⊘ (禁止)	電池ボックスコードが傷んだり、電池の差し込みがゆるい時は使用しないでください。 ※発火、ショート、感電の原因となります。	
⊘ (禁止)	電池を水の中に入れてください。 ※漏電、破裂、発火、発熱、機器の故障の原因となります。	
⊘ (禁止)	電池を加熱したり、湯中に投げ入れないでください。 ※漏電、破裂、発火、発熱、機器の故障の原因となります。	
⊘ (禁止)	電池を強制放電しないでください。 ※漏電、破裂、発火、発熱、機器の故障の原因となります。	
⊘ (禁止)	電池を充電しないでください。 ※漏電、破裂、発火、発熱、機器の故障の原因となります。	
⊘ (分解禁止)	電池を分解・加工・改造しないでください。 ※漏電、破裂、発火、発熱、機器の故障の原因となります。	
⊘ (禁止)	水道水及び飲用可能な井戸水以外は使用しないでください。 ※商品の内部腐食により漏水、発火、ショート、感電の原因となります。 ※飲用可能な井戸水とは、水道法に定められた飲料水の品質基準に適合する水を言います。	

注意

⊘ (禁止)	湯水を逆に配管しないでください。 ※水を出そうとしても、湯が出てヤケドをするおそれがあります。	
ⓘ (指示)	ヤケドの恐れがないところまで水圧変動を押さえた配管設備にしてください。 ※他所の水栓の使用などにより水圧変動が起こり、湯の使用中に湯温が急上昇し、ヤケドをするおそれがあります。	
ⓘ (指示)	フレキシホースの差し直しやストレーナの掃除をする際は、必ず湯側水側の両方の止水栓を閉じてから行ってください。 ※湯・水が噴出してヤケドをしたり、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。	
⊘ (禁止)	トイレ用洗剤、住宅用洗剤、漂白剤、ベンジン、シンナー、トイレ用ウェットティッシュ、クレンジング、クレンジング剤を使用しないでください。 ※発火、ショート、感電、故障の原因となります。	
⊘ (禁止)	衝撃を与えたり、もたれかかたりしないでください。 ※破損してケガをしたり、漏水や故障の原因となります。	
ⓘ (指示)	お客さまに引き渡す前に凍結が予想される場合は水を抜いておいてください。 ※凍結破損で漏水し、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。	
⊘ (禁止)	水抜きは水抜き以外の目的で開けないでください。 ※ケガをしたり、故障・破損のおそれがあります。	
ⓘ (指示)	電池の液が漏れたときは、液をきれいにふき取ってください。 万一、液が体についたときは、水でよく洗い流してください。 漏液した電池は使用しないでください。	
ⓘ (指示)	電池を機器に使用するまでの間、または機器から取り外して保管するときなどは、風通しの良い、乾燥したあまり温度の上らない場所に保管してください。	

本製品の仕様と条件

電源	乾電池 DC3V(アルカリ乾電池単1形2本)	乾電池寿命	約1年(環境温度20℃、100回/日使用時)(※1)
給湯器設定温度	85℃以下	使用可能水質	水道水および飲用可能な井戸水(※2)
使用環境温度	【一般地仕様】 0~40℃ 【寒冷地仕様】 -20~40℃		但し、内部の水を凍結させないでください。
給水給湯接続	G1/2		
圧力条件	0.06MPa(流動時)~0.75MPa(静止時)(※3) 給水圧力≧給湯圧力(※4)		
感知距離	約40mm(グレーコード: 80mm角)	感知エリア幅	約φ5mm
電池ボックスコード長さ	1.5m		

※1: 設計上の理論値であり性能を保証するものではありません。乾電池の種類や設置環境により変動します。
※2: 飲用可能な井戸水とは、水道法に定められた飲料水の品質基準に適合する水をいう。
※3: 水栓金具が接続された状態で水栓金具の給水・給湯接続部直前の圧力です。
※4: 給湯圧力が給水圧力よりも高い場合、正常な調節ができなくなり、ヤケドをするおそれがあります。

その他の条件

- 給水圧力が0.75MPaを超える場合は、市販の減圧弁で適正圧力(0.20~0.34MPa)に減圧してください。
- 給湯器に蒸気は使用できません。
- 給湯温度は使用する最高温度より約10℃高く設定してください。
- 不意の出湯によるヤケド防止のため、給湯器の設定温度は60℃以下をおすすめします。
- ガス給湯器と組み合わせてご使用の場合、給湯器の能力・水圧などの条件により給湯器が着火しないことがあります。
- 貯湯式電気温水器は減圧弁にて給水圧力を減圧しているため、湯の流量が少なくなる可能性があります。LIXIL製の貯湯式電気温水器と組み合わせてご使用の場合は、弊社ホームページで組合せ表をご確認ください。

施工前のご注意

取付けに必要な工具

- 取付けにはプラスドライバー、スパケ(対辺8、21、23)、小型マイナスドライバーが必要です。

止水栓を設けてください。

- 取付け後の流量調節や手動弁操作・保守点検のために、必ず止水栓(別売)を設けてください。
- 使い勝手や性能発揮のために、流量調節をしてください。特に水圧が高い場合など、流量調節がされていないと漏水・破損のおそれがあります。

隠蔽部に施工する場合は点検口を設けてください。

- 取付け後の手動弁操作の施工のために、必ず点検口を設けてください。

補強材を使う場合

- カウンター裏面に補強材を使う場合は、木製のボードを使用してください。珪酸カルシウム板は使わないでください。本体が正しく固定できないことがあります。やむをえない事情で珪酸カルシウム板を使用する場合は、別売りのA-3811を使用してください。

配管・配線について

- 給水は水道水に接続してください。
※温泉水など異物を多く含む水には使用できません。
- 給水配管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確認してください。
※逆配管では表示通りに湯が出ません。
- 給湯配管はできるだけ短くし、必ず保護材を巻いてください。
- 乾電池タイプのため、配線工事は不要です。
- 必ず配管中の異物を完全に洗い流してください。

その他の注意点

- 商品の表面には、直接工具を掛けしないでください。
※工具を掛ける場合には、必ず商品に布等をあてて保護してください。
- 開梱、取付けの際には商品の表面にキズを付けないように十分に注意してください。
- センサーの窓を傷つけないように十分にご注意ください。
- インバーター照明や赤外線を用いたほかの機器により誤作動する場合があります。
- 直射日光が当たる場所でのご使用は誤作動の原因となります。

施工完了図

- 品番によっては、図と現品の形状が一部異なります。
- シンク深さ(厚み含む)*1寸法が220mm以上の場合は*2寸法が90mm以上ないと、バルブがシンクと干渉し施工できません。
- 水栓取付面から上方450mmより低い位置に棚や物がある場合は施工できません。
- 使用時には、水栓取付面から上方375mm以内で他器具(昇降キャビネットの取手を含む)のないようにしてください。
- 水栓取付面からシンク下の底板(棚板)までの距離が540mm以上ないと、ホース収納時に底板(棚板)との干渉が大きくなり、使用上問題はありませんが、ホース収納性が悪くなります。
- 電池ボックスコードの届く範囲で、床面より高く水の掛からない位置に設置してください。
- 電池ボックスは横向き設置可能です。
- 電池ボックスは側板など強度のあるところに設置してください。

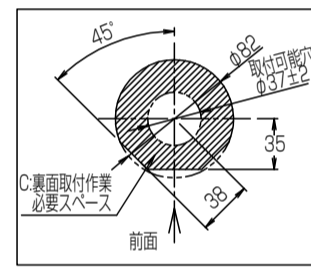
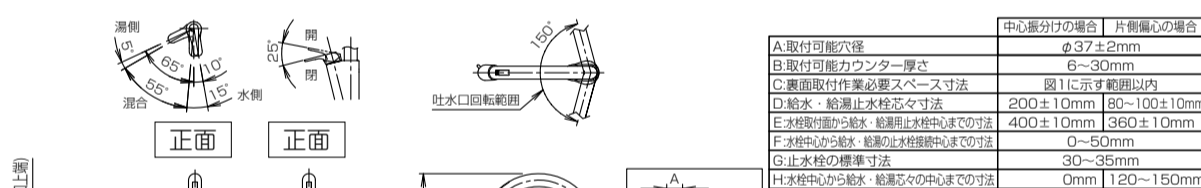
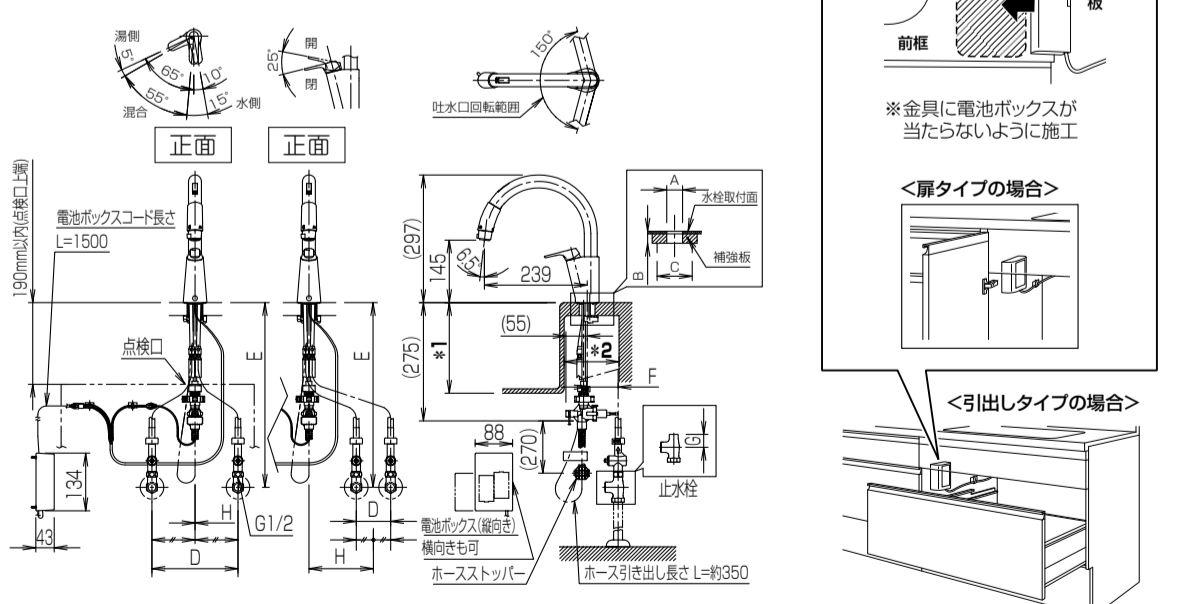


図1.裏面取付作業必要スペース寸法(1:5)

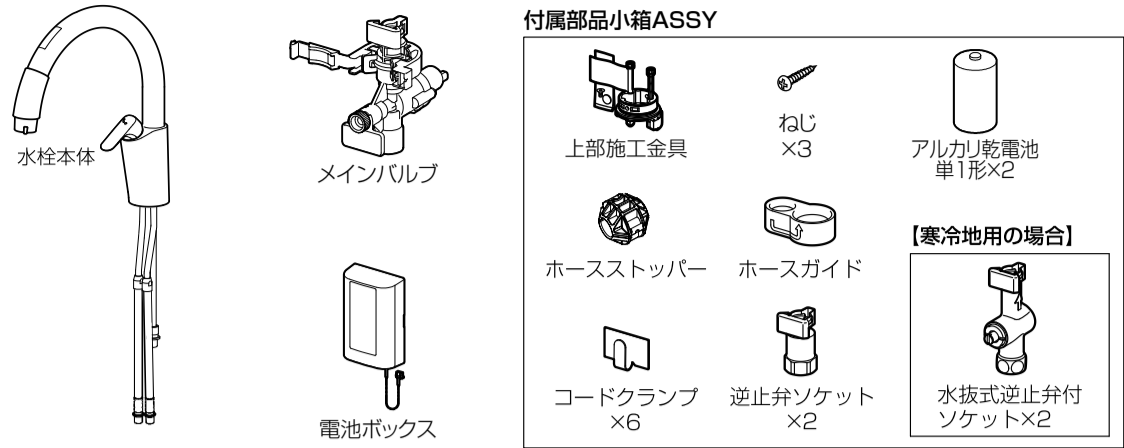
SF-NAB454SYX型



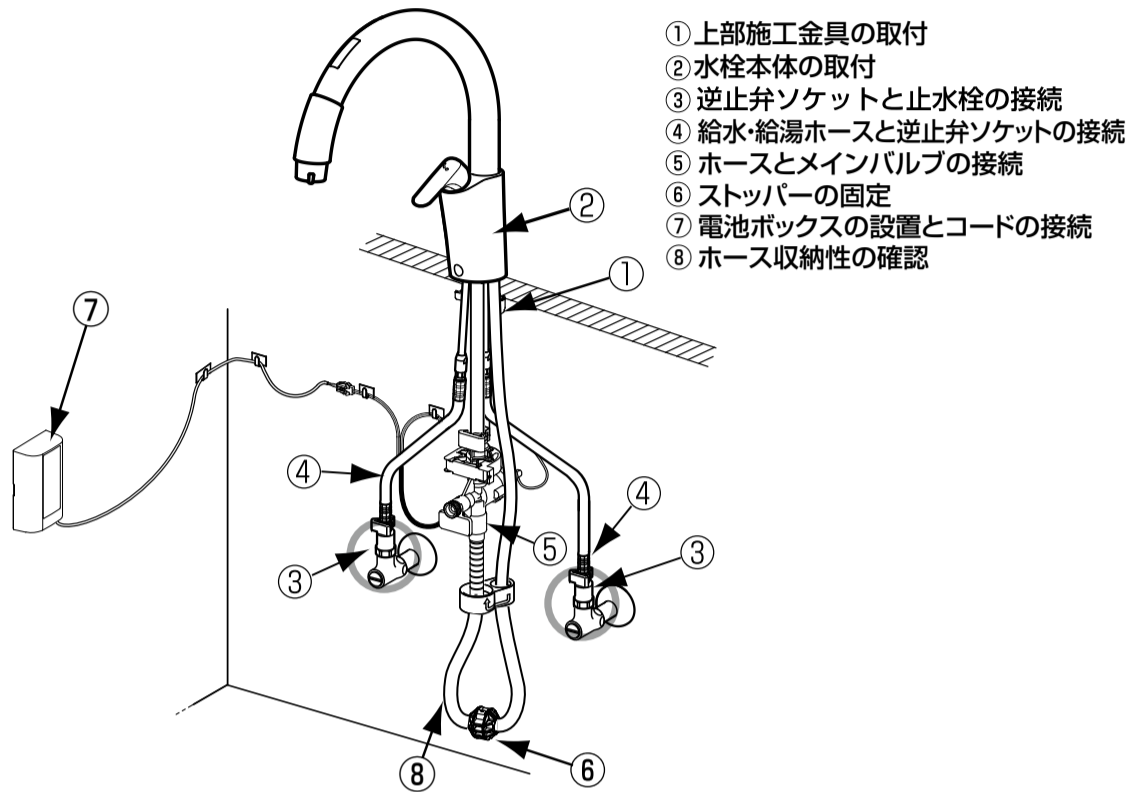
SF-NAB454SYXN型



部品の確認



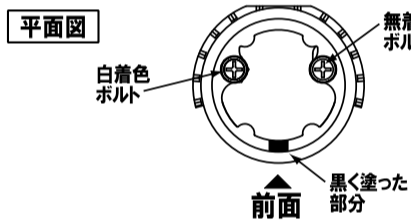
2. 施工手順



3. 施工方法

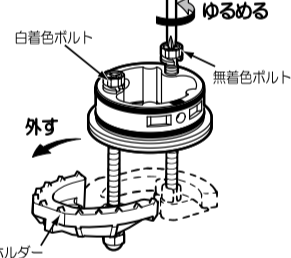
以下の手順の通り、正しく取り付けてください。

1 上部施工金具の取付

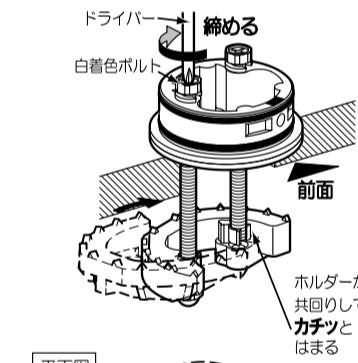


注意
上部施工金具は向きに注意して、正しく取り付けてください。
※正しく取り付けないと水栓本体の固定強度が低下するなど、不具合の原因となります。

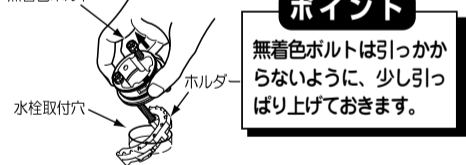
1. 無着色のボルトをゆるめ、ホルダーを外す。



4. アダプターを手で押さえ、白着色ボルトを1~2回転締める。

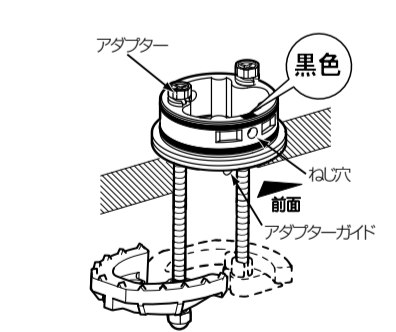


2. ホルダーを水栓取付穴に挿入する。



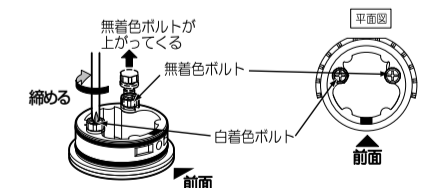
ポイント
無着色ボルトは引っかかりがないように、少し引っぱり上げておきます。

3. アダプターの黒く塗った部分が前方を向くように位置決めをする。

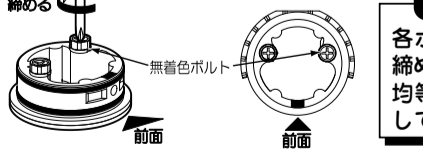


注意
ゆっくり回してください。
※高速回転はしないでください。正しく施工できなくなるおそれがあります。

5. アダプターを手で押さえ、白着色ボルトをしっかり締める。



6. 無着色ボルトをしっかり締める。



ポイント
各ボルトを交互に締め付け、締め付け力が均等になるようにしてください。

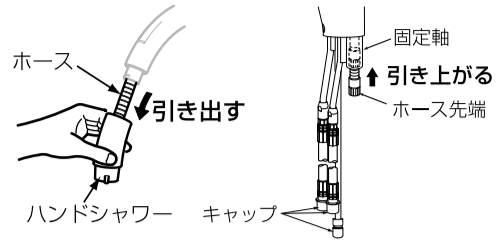
7. スパナでそれぞれのボルトを約1/2回転程度増締めする。



注意
締め付けすぎないでください。
確認
アダプターのくらつきがないことを確認してください。

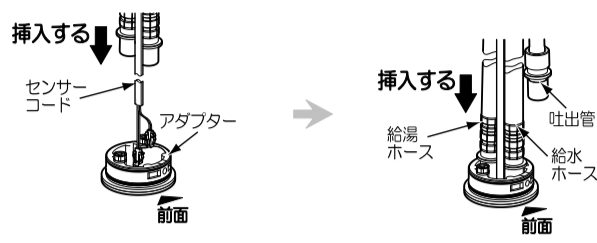
2 水栓本体の取付

1. ホースの先端が固定軸の中にかくれるまでハンドシャワーを引き出す。



注意
落下注意
●傷や破損の原因となります。
●先端のキャップはそれぞれ接続する直前で外さないでください。
※のリングに傷がついたりゴミがみ込むことで漏水の原因となります。

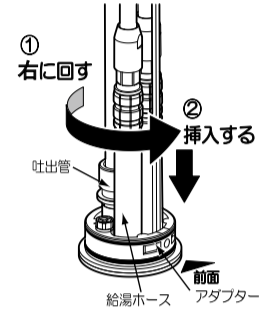
2. センサーコードを先にアダプターに挿入し、続いて給水・給湯ホースを挿入する。



ポイント
給水・給湯ホースを下図のように横並びにして挿入してください。

平面図
給湯ホース
吐出管
給水管
センサーコード
前面

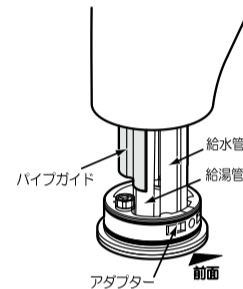
3. 吐出管がアダプターに当たる手で水栓本体を右に回し、吐出管を挿入する。



ポイント
吐出管が後ろ側にくるまで回転させてください。

平面図
吐出管
給湯管
給水管
前面

4. そのままの向きで、パイプガイドを挿入する。



ポイント
パイプガイドが後ろ側にくるようにしてください。

平面図
パイプガイド
給湯管
センサーコード
給水管
吐出管
前面

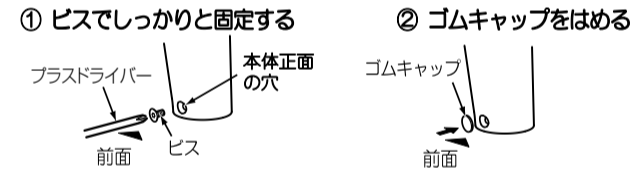
5. 水栓本体をアダプターに装着する。



注意
●センサーコードをはさみ込んだり、引っ張ったり、銅管にからませないでください。
※コードが破損し、発火・ショート・感電の原因となります。

引っ張らない
コードをはさまない
からませない

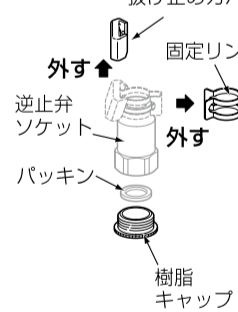
6. 水栓本体を固定する。



確認
水栓本体にくらつきがないことを確認してください。

3 逆止弁ソケットと止水栓の接続

1. 抜け止めカバー・固定リング・樹脂キャップを外す。



注意
パッキンの紛失に注意してください。
※漏水の原因となります。

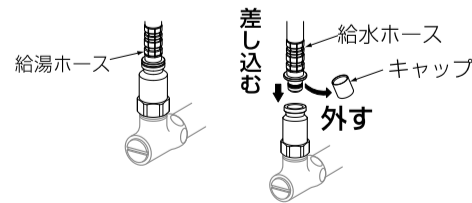
2. 逆止弁を止水栓に固定する。

注意
●パッキン接触面に異物がないことを確認してください。異物がある場合は傷つかないように樹脂ヘラ等できれいにし、完全に洗い流してください。
※漏水の原因となります。
●締め付けはナット部に工具を掛けて、しっかりと固定してください。
※締め付けが不十分であったり強く締め付けすぎると、漏水の原因となります。

逆止弁ソケット
パッキン
ナット締め付け
止水栓 (湯側)

4 給水・給湯ホースと逆止弁ソケットの接続

1. 給水・給湯ホースを逆止弁ソケットに差し込む。

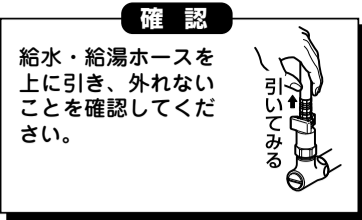
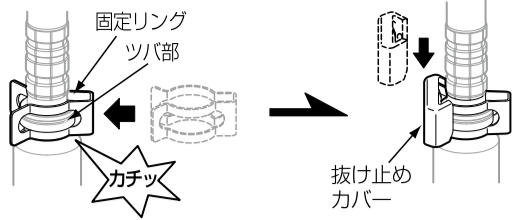


注意
Oリングに傷をつけたりゴミがみがないよう注意してください。
※漏水の原因となります。

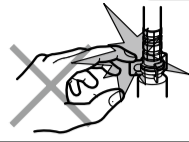
注意
●給水・給湯ホースの差し間違えに注意してください。
※水を出そうとしても、湯が出てヤケドをするおそれがあります。
●必ず逆止弁ソケットを止水栓に固定してから給水・給湯ホースを接続してください。
※漏水の原因となります。
●ホースを曲げる場合は、曲げ半径30mm以上確保してください。
※漏水の原因となります。

湯表示シールを確認する
給湯ホース
給水ホース
逆止弁ソケット
給水・給湯ホース
曲げ半径は30mm以上
給水・給湯ホース

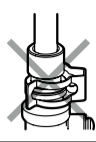
2. 固定リングと抜け止めカバーをはめ込む。



注意
●抜け止めカバーは、はめ忘れないようにしてください。
※リングに触れるとケガをするおそれがあります。

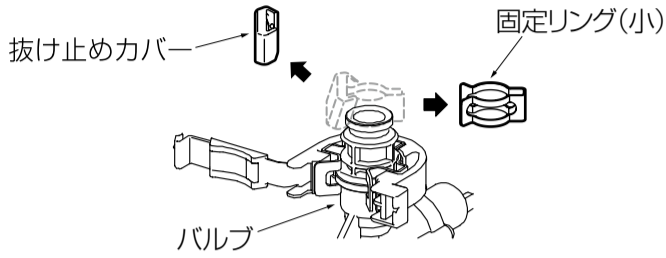


注意
●固定リングをはめ損ねないよう、必ずしっかりとめ込んでください。
※外れると漏水の原因となります。

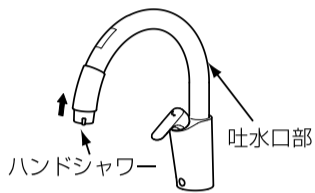


5. ホースとメインバルブの接続

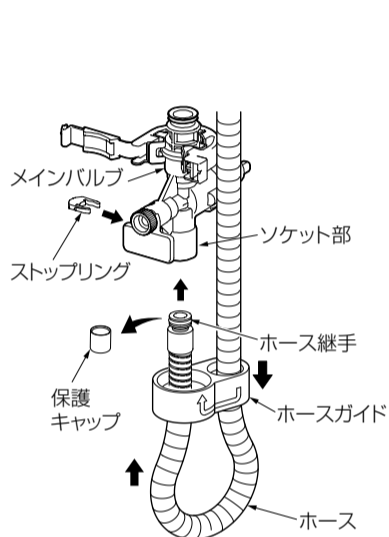
1. メインバルブの抜け止めカバー・固定リングを外す。



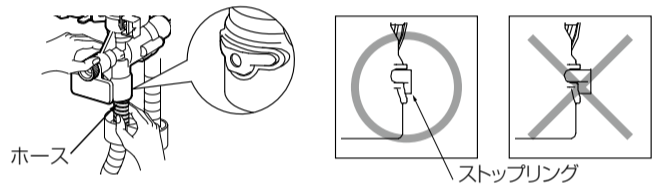
2. ハンドシャワーを吐水口部に収納する。



3. ホースをホースガイドの矢印のとおりを通し、ホースがメインバルブの端子と干渉しないように、メインバルブの右側にもってくる。ホースをメインバルブのソケット部に差込み、ストップリングで固定する。

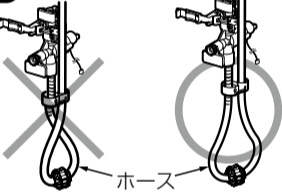


ポイント
メインバルブを手で持ち、ホースを挿入した後、ストップリングをしっかりとはめ込んでください。(ストップリングが外れると漏水の原因となります。)
※カチッと音がするまで差込んでください。
※ストップリングがソケットからはみ出していないことを確認してください。



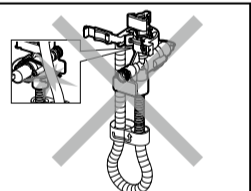
注意

ホース継手を接続する際はホースがねじれないようにしてください。
※ハンドシャワーがスムーズに引き出せなくなります。

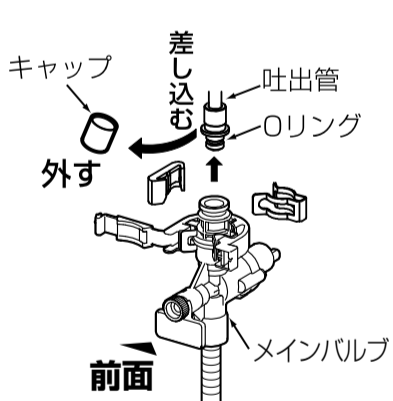


注意

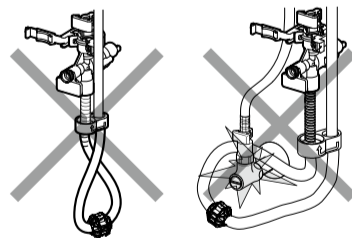
●ホースはメインバルブの右側にくるようにし、ホースとメインバルブの端子が干渉しないようにしてください。
●ホースは浄水バルブに接続しないでください。



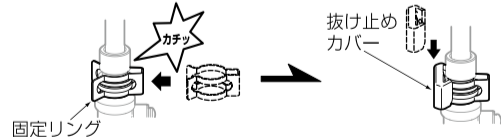
4. メインバルブを吐出管に接続する。



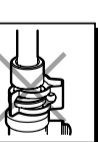
注意
●Oリングに傷をつけたりゴミがつかないように注意してください。
※漏水の原因となります。
●メインバルブを吐出管に接続する際、ホースがねじれたり、止水栓をまたいで接続しないでください。
※ホースが破損し、漏水の原因となります。



5. 固定リングと抜け止めカバーをはめ込む。



注意
固定リングをはめ損ねないよう、必ずしっかりとめ込んでください。
※外れると漏水の原因となります。

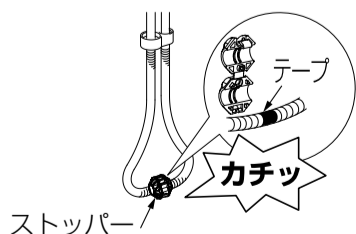


6. ストッパーの固定

テープを覆うようにストッパーを取り付ける。

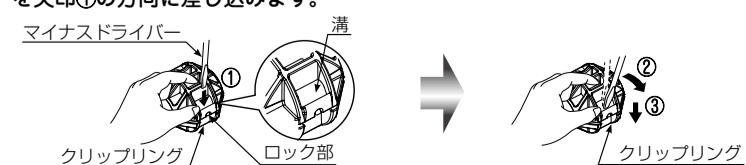
ポイント

ハンドシャワーは吐水口に収めた状態で行う。



ポイント

ストッパーの外し方
1. ストッパーを指で押さえます。ロック部の溝に、マイナスドライバーを矢印①の方向に差し込みます。
2. 差込んだマイナスドライバーを矢印②の方向に傾けます。
3. マイナスドライバーを矢印③の方向に押し込んでロックを解除し、ストッパーを外します。



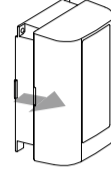
7. 電池ボックスの設置とコードの接続

注意
濡れた手で触れたり、水がかからないよう十分注意してください。
※発火・ショート・感電・故障の原因となります。

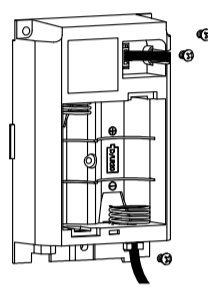
1. 電池ボックスの取付位置を仮決めし、シャワーホースやフレキシホースと絡まないようにコードを取り回しておく。

注意
●電池交換がしやすいように、電池ボックスはキャビネット内の手前に設置してください。
●電池ボックスのカバーを外せる空間を確保してください。
●電池ボックスは側板などで強度がある場所に取付けてください。
※電池交換時に脱落し、故障やケガの原因となります。

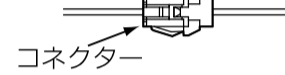
2. 電池ボックスのカバーを手前に引いて外す。



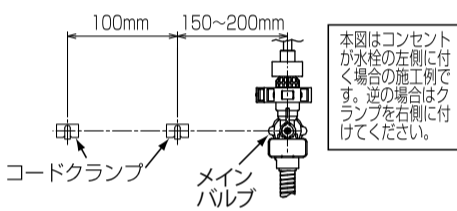
3. キャビネット内に3本のビスで固定する。ステンレスキャビネットなどの場合は、補強木に固定する。



4. コネクターを接続する。

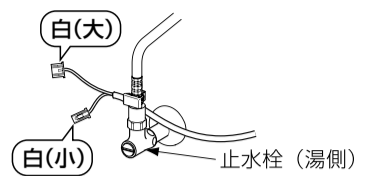


5. キャビネットの背板にコードクランプを取り付ける。(下図2か所は必ず付けてください。)

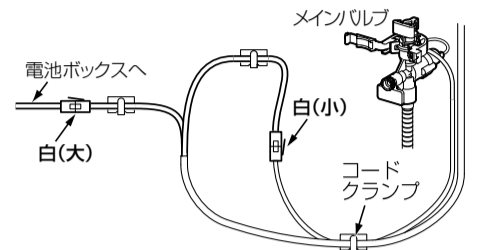


6. 背板に沿ってセンサーコード、電磁弁コード2本を湯側止水栓の上から左へ通す。

注意
コード類とホース等が絡まないようにしてください。
※発火・ショート・感電の原因となります。

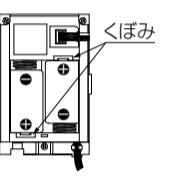


7. コードをコードクランプでキャビネット内に固定する。(5~6か所)



注意
●コードがキッチン引出しレールなどにかみこまないように配線してください。
●上図の「コードクランプ」は、電池ボックス・バルブよりも下方に設置してください。
※発火・ショート・感電・故障の原因となります。

8. アルカリ乾電池単1形2本を装着し、カバーを取り付ける。 ※くぼみがある側には+がくるように乾電池の向きに注意する。



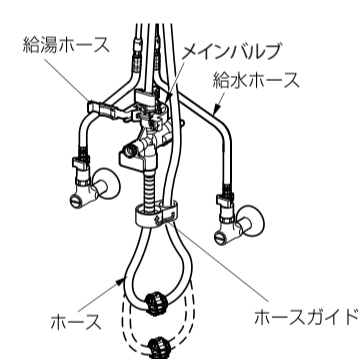
注意
●電池はアルカリ乾電池単1形を2本ご使用ください。
●新旧、異種の電池は使用しないでください。
●電池の+表示を確かめて入れてください。
※乾電池の液が漏れて機器の故障の原因となります。
●断線のおそれがあるため、センサーコードを挟まないようにしてください。

9. 施工後タグを水栓本体のハンドル部に取り付けてください。



8. ホース収納性の確認

1. ハンドシャワーを数回出し入れし、シンク下のホースがスムーズに同じ位置に戻ってくるか確認する。



ポイント
●ホース収納がスムーズになるよう、吐出管を左に軽く曲げて、ホースがまっすぐ垂れ下がるようにしてください。
●ホースが引出し、配管スペース、止水栓などに干渉する場合は、吐出管を軽く曲げて、ホースの干渉を避けてください。

4. 施工後の調整

以下の手順の通り、正しく調整してください。

1. 作動確認

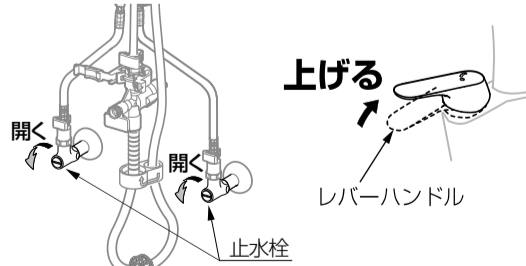
- 乾電池が電池ボックスに正しく差し込まれていることを確認する。
- メインバルブの手动弁が「左いっぱい」に回っていることを確認する。



ポイント
手动弁は工具を使わず手でゆっくり回してください。

注意
左いっぱいには回さないと止水不良(センサーに手をかざしても水が止まらない)の原因となります。

3. 止水栓を開き、レバーハンドルを上げる。



注意
高温に注意してください。
※レバーが湯側になっていると不意に高温の湯が出てヤケドをするおそれがあります。

4. センサーに手をかざして、吐水・止水を確認する。



ポイント
●感知エリアは右図のようになっています。
●約3秒間手をかざし続けると自動的に止水します。
●10分間吐水が続くと自動的に止水します。


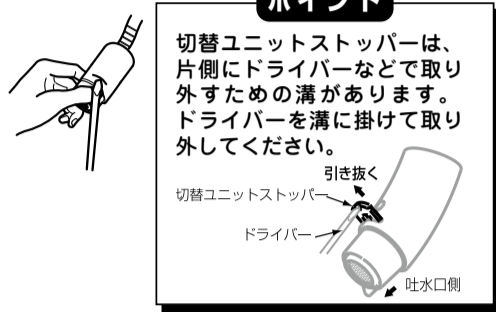
5. センサーまたはレバーハンドルを閉じて止水し、接続部からの漏水がないか確認する。

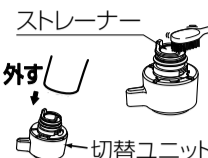
2 ストレーナーの掃除

注意

作動確認後、**ストレーナーを必ず掃除**してください。
※ストレーナーが詰まると流量が少なくなり、十分な機能が発揮されません。

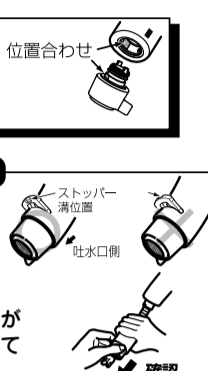
切替ユニットのストレーナーの掃除

1. ハンドシャワーを引き出す。

2. 裏側にある切替ユニットストッパーをマイナスドライバーなどで引き抜く。



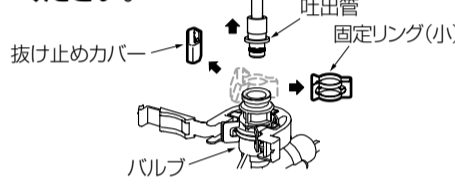
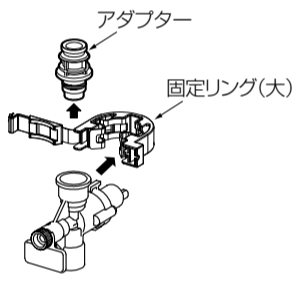

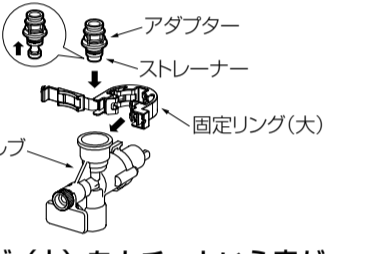
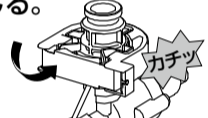
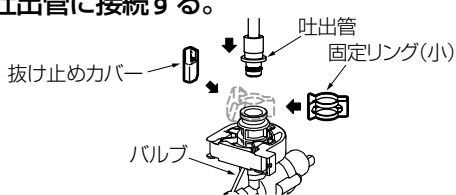
ポイント
切替ユニットストッパーは、片側にドライバーなどで取り外すための溝があります。ドライバーを溝に掛けて取り外してください。
3. 切替ユニットを外して、ストレーナーに付いたゴミを歯ブラシなどで洗剤を使わずにこすり落とす。

4. 切替ユニットを取り付ける。

ポイント
取り付けるときは、位置合わせの向きを合わせて差し込んでください。

注意
●切替ユニットストッパーを取り付けるときは、溝が吐水口側になるようにしてください。
●取り付け後は切替ユニットが抜けてこないことを確認してください。

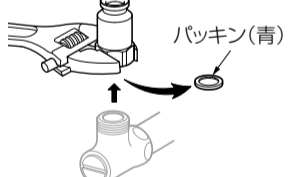
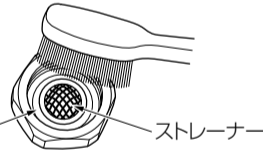
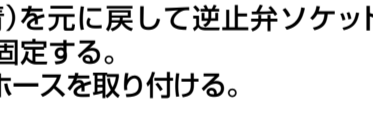


ストレーナーの掃除

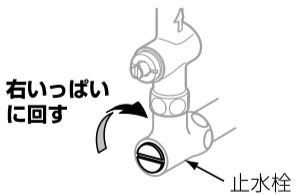
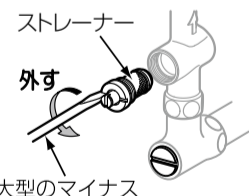

1. 止水栓を閉じる。(右いっばいに回す)

2. バルブの抜け止めカバーと固定リング(小)を外し、吐出管からバルブを外す。

3. 固定リング(大)を外し、アダプターを外す。

4. ストレーナーを外し、ゴミ、汚れを洗剤を使わずにこすり落とす。

5. ストレーナーをアダプターに入れ、バルブに取り付け、固定リング(大)を取り付ける。

6. 固定リング(大)をカチッという音がするまで閉じる。

7. 吐出管に接続する。


逆止弁ソケット部ストレーナーの掃除(水・湯給水部共通)

一般地仕様の場合

1. 止水栓を閉じる。(右いっばいに回す)
2. 給水、給湯ホースを外してから逆止弁ソケットを外して、パッキン(青)を取り外す。

3. ストレーナーのゴミ等を歯ブラシなどで洗剤を使わずにこすり落とし、水洗いして除去する。

4. パッキン(青)を元に戻して逆止弁ソケットを止水栓に固定する。給水、給湯ホースを取り付ける。


寒冷地の場合

1. 給水(給湯)の止水栓を閉じる。(右いっばいに回す)

2. ストレーナーを取り外し、ゴミ等を歯ブラシなどで洗剤を使わずにこすり落とす。

3. ストレーナーを取り付ける。


3 流量の調節

レバーハンドルを全開にしたとき、水側または湯側のスポット微細シャワーの流量が8L/min(※)を越える場合は、止水栓で流量調節をしてください。
(※：1リットルの容器をいっばいにするのに約8秒)

1. レバーハンドルを湯側いっばいの位置に合わせて全開にします。
2. 湯側の止水栓で適量に調節します。
3. レバーハンドルを水側いっばいの位置に合わせて全開にします。
4. 湯の吐出量とほぼ同じになるように水側の止水栓を調節します。

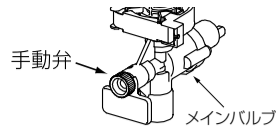
ポイント

●湯と水の流量が同じになるよう調節してください。

5. 引渡前の確認

注意

●メインバルブの手動弁を左いっばいに回した状態で、プレートをしっかり差し込んでください。
※プレートがしっかり挿し込まれていないと手動弁が回り、水が止まらなくなる可能性があります。



お客さまに引き渡す前にもう一度通水し、次のような現象がないか確認してください。

現象	点検内容	点検箇所	処置	参照項目
吐水しない	止水栓は開いているか?	—	止水栓を開く。	施工後の調整「流量の調節」
	レバーハンドルは開いているか?	B	レバーハンドルを開く。	
	施工前に乾電池を入れていませんか?	N	乾電池を入れ直す。	
	乾電池が正しくセットされていますか?	N	乾電池を正しくセットする。	
	電池切れになっていませんか?	N	乾電池を交換する。	
	センサーの表面が汚れていませんか?	E	汚れをふきとる。※1	
	コネクターが外れていませんか?	M	コネクターを接続する。	
	断水中ではないか?	—	回復するまで待つ。	
流量が少ない	圧力は十分か?	—	圧力条件を確認する。	施工前に「本製品の仕様と条件」
	止水栓は十分開いているか?	—	止水栓を十分開く。	施工後の調整「流量の調節」
	ストレーナーにゴミ詰まりはないか?	F・H・L	ゴミ等を水で洗い流す。	施工後の調整「ストレーナーの掃除」
	配管途中に大きな抵抗はないか?	—	抵抗となる障害物を取り除く。	
水が止まらない	レバーハンドルを絞りにすぎているか?	B	レバーハンドルを開く。	
	ゴミかみはないか?	D	ゴミ等を水で洗い流す。	
	キズはないか?	D	キズがあれば部品を交換する。	
	ゆるみはないか?	C	カートリッジ固定ナットを締める。締め過ぎるとレバーハンドルが重くなる場合があります。	
	手動弁が開いてないか?	I	手動弁を閉じる。(左いっばいに回す)	
	センサーの感知エリア内に障害物はないか?	E	障害物を取り除く。	施工前に「施工完了図」 施工後の調整「作動確認」
湯水の逆流がある	逆止弁は正常か?(ゴミ、砂かみはないか?・Oリングにキズはないか?)	J	ゴミ等を水で洗い流す。 キズがあれば部品を交換する。	取扱説明書「定期的なお手入れ」
	圧力は十分か?	—	圧力条件を確認する。	施工前に「本製品の仕様と条件」
希望の温度が得られない	流量調節はよいか?	—	適正流量に調節する。	施工後の調整「流量の調節」
	ストレーナーにゴミ詰まりはないか?	F・H・L	ゴミ等を水で洗い流す。	施工後の調整「ストレーナーの掃除」
水栓本体がガタつく	ゆるみはないか?	G	ねじをしっかり締める。	
ハンドルがガタつく	ゆるみはないか?	A	ねじをしっかり締める。	
ホースがスムーズに収納できない	シンク内でホースがねじれたり、メインバルブと干渉していないか?	H・K	ねじれおよび干渉していないか確認する。	施工方法「ホース収納性の確認」

注意

※1 センサー表面の汚れをふきとる場合は、キズをつけないようにしてください。
キズが付くと正常に作動しなくなる場合があります。

以下の現象は、故障ではありません。

- 水を止めた後に少しのあいだ水が垂れますが、切替ユニットの内部に溜まった少量の水が排出されるため、故障ではありません。
- センサーによる吐水・止水時にカチカチと音がするのは、メインバルブの動作音によるもので、故障ではありません。
- 手をかざすタイミングとセンサーの感知周期によって反応が遅く感じる場合があります。約1秒かざして反応すれば正常です。

